

非定型的腺細胞(AGUS)と診断された GOG-0171 (GOG-JAPAN 施設に登録された) 患者から得られた Pap 染色の細胞診標本を使用した異常腺病変の形態計測学的診断

『研究対象者の方へ』

当研究は、腺癌の診断精度の向上を目的に、九州大学大学院医学研究院保健学部門において行う研究です。使用する標本は、下記【対象】で選択された細胞診標本です。

なお、下記【対象】に該当する方で、当研究に参加されることを希望されない場合は、お手数ですが下記連絡先にご連絡をお願いいたします。

【はじめに】

子宮癌(子宮頸部癌と子宮体癌)には、大きく分けて扁平上皮癌と腺癌があります。しかし、腺癌は扁平上皮癌に比較して、罹患率の増加とともに、診断が難しいという、問題を抱えています。実際に「異型腺細胞がみられました」と診断されても、腺癌であるとは限らず、炎症性疾患の場合もあれば、扁平上皮癌である場合もあります。正確に腺癌と診断することは、治療や病気の進行具合との関係から、重要なことです。

今回は特に腺癌に焦点をあてて、細胞診検査の結果と、病理学的最終診断との診断の正確性を検討し、腺癌の診断精度の向上を目的とする研究です。

【研究内容】

細胞診標本に出現する異型細胞を写真にとり、画像解析ソフト(Image J)を使用して細胞の情報(クロマチン分布、核間距離、核小体)を計測します。この情報を病理学的最終診断と比較検討し、腺癌に最適な診断基準を作成します。

【対象】

下記①-③をすべて満たされた方の細胞診標本のうち、GOG(米国婦人科腫瘍グループ)において、本研究に適切であると判断された55検体です。

①平成15年3月-平成19年12月の間に、埼玉医科大学・川崎医科大学・鳥取大学・東北大学・慶應義塾大学・鹿児島市立病院および九州がんセンターの婦人科を受診され、子宮癌検診細胞診検査をうけた方、②細胞診検査で『AGUS or AGCUS』と診断された方、③GOG-0171(非定型的腺細胞(atypical glandular cells of undetermined significance (AGUS or AGCUS))におけるMN蛋白発現の子宮頸部上皮内腫瘍、癌の生物学的診断マーカーとしての有用性に関する研究)にご参加いただいた方

【研究予定期間】

研究を行う期間は平成25年12月までと考えています。

【医学上の貢献】

正確に腺癌を診断することにより、より早期に適切な治療への選択が可能になると考えられます。

【研究機関・組織】

九州大学大学院医学研究院保健学部門 教授 加未 恒壽
医学研究院保健学部門・助教・渡邊 壽美子

【連絡先】

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1
九州大学大学院 医学研究院保健学部門
助教 渡邊 壽美子
TEL: 092-642-6700
FAX: 092-642-6700

本研究が載っているHP

- 1) 保健学科のHP: <http://www.shs.kyushu-u.ac.jp/app/modules/research/>
- 2) Study of Pap Smears From Patients Enrolled on Clinical Trial GOG-171 :
<http://clinicaltrials.gov/ct/show/NCT00898144>